

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名

【 熊本県 】 熊本市立北部東小学校

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	児童 459 名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	(1) 2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会への機運を高める。 (2) オリンピアン生き方を学ぶ。
5 取組内容	○講演会及び実技指導 平成30年1月17日（水）に本校体育館にて、矢澤航氏（陸上競技・110mハードル：リオデジャネイロ大会出場）を迎え、講演会及び実技指導を行った。 (1) 講演 講演では、陸上競技を始めたきっかけ、オリンピックを目指すようになった経緯、さらにオリンピック出場に向けて取り組んだことについてお話いただいた。詳細は、以下の通りである。 小学校の頃は野球をやっていたが、打つことが苦手だったため、中学校では、母親の勧めで陸上を始めた。 オリンピックを目標に掲げたのは、2011 年に全日本チャンピオンになったときである。そして、2012 年のロンドン大会の出場をかけた日本選手権に挑んだ。しかし、フライングで失格になってしまった。このときの失敗は、人生で一番悔しい瞬間であった。 ショックで茫然としていたが、「その先の4年後に行ける可能性があるのに、その可能性を捨てるのか！」という声が心に響き、2016 年のリオデジャネイロ大会を本気で目指すようになった。 オリンピックを意識し始めると、陸上の練習だけでなく、日常生活の様々なことを頑張るようになった。嫌いなことも苦手なことも頑張

	ることが大切である。逆に言えば、嫌いなことから逃げることは可能性を捨てることである。 オリンピックまでの4年間は試行錯誤の連続だったが、チャレンジを重ね、自分なりの走り方を習得し、リオデジャネイロ大会の出場権を獲得した。出場が決まったときは、多くの人から祝福され、競技は自分一人でやっているわけではない、ということを実感した。 オリンピックのときの思い出としては、選手村では様々な料理のお店があり自由に食事をとることができるが、様々な国の人がい로운食べ方で食事をしていたことや、トップアスリートの人達が普通に歩いている様子を見て楽しかった。 質疑応答 「次の東京にでようと考えているのか」 ⇒「東京オリンピックには出場したい。リオオリンピックの閉会式で安倍首相がマリオになって飛び出してきたとき、世界中の人達が盛り上がり、東京オリンピックに出たいと強く思った。何を犠牲にしても頑張るって東京に出場したい」 「オリンピック選手にお友達はいるか」 ⇒「飯塚選手とは同じ年齢で、一緒に食事に行ったり、旅行に行ったりしている。桐生選手とご飯を食べに行ったりもしている」
6 主な成果	講演内容からみた成果 目標をもつと、それ以外の嫌なことも頑張ろうと思えるようになる
7実践において工夫した点 (事業の特色)	現役のアスリートによる、パフォーマンスを披露することで児童の興味関心を高めることができた。
8主な課題等	事前指導の充実ができなかった。
9来年度以降の実施予定	パラリンピアンによる実施予定。